



EL SALVADOR

学校名:長岡市立与板中学校

氏名:榎本 砂織

[担当教科:英語]

● 実践教科等:総合的な学習の時間

● 時間数:15時間

● 対象生徒:中学1年生

● 対象人数:59人

[1]単元名

夢をもとう。描いた夢は実現する。～あなたにも、きっと何かができるはず!～

[2]単元の目的/目標 (ESD の能力・態度)

- ・JICA ボランティアの活動に触れることにより、自己の生き方・あり方について思案し、他に貢献する意欲、態度を育てる。(未来を予測して計画を立てる力、進んで参加する態度)
- ・「新・貿易ゲーム」「世界がもし100人の村だったら」の学習を通して、世界の中の日本を理解する。他との意見交換を重ねながら、問題点の把握、その改善策の立案をする。(コミュニケーションを行う力、他者と協力する態度、つながりを尊重する態度)
- ・「1枚の看板」の学習を通して、お金や物を与えることによる影響について考え、よりよい支援について考察する。(批判的に考える力、多面的、総合的に考える力)

[3]ESD(持続可能な社会づくり)の視点

多様性	相互性	有限性
公平性	連携性	責任性

- ・エルサルバドルと日本の「食」「災害」「治安」「教育」「家族」の違いに気づく。(多様性)
- ・たまたま豊かな日本に生まれただけの自分が、他者のために行動すること、平和な社会づくりに貢献することの価値を学ぶ。(公平性)
- ・与板地域、世界の理想的な未来像を描き、その実現に向けて自分にできることを考え、行動を起こす。(責任性)

[4]単元の構成

時限	本時のねらい、テーマ	学習活動・学習内容	使用教材	評価の観点と方法
1	【学校に通うのは義務? 権利?】 就学率、児童労働について学ぶ。世界の中の日本の現実を知る。	・生きるために働かなければならない子どもたちの現実について知る。 ・水の入ったバケツを実際に運んでみる。	・「どうなってるの? 世界と日本」 ・「ぼくら地球調査隊」	・水運びへの積極性の観察 ・ワークシート(WS)の記述内容の確認
2・3	【世の中の縮図を実感しよう】 経済のグローバル化について考える。	・与えられた材料・道具を用いて、製品を作り、販売する。 ・ゲームでの事象を、実際の社会での事象に置き換える。	・「新・貿易ゲーム」	・グループ活動の取組、発表の意欲の観察 ・WSの記述内容の確認
4	【文化の多様性に気付こう】 「食」を通して、生活・文化の多様性について考える。	・オーストラリアⅠⅡ、グリーンランド、中国ⅠⅡ、トルコ、日本ⅠⅡの家庭の1週間分の食料の写真から、食と生活に関する比較を行う。	・「地球の食卓」 ・フォトランゲージ	・グループ活動の取組の観察 ・WSの記述内容の確認
5	【日本は少子化。でも世界は?】 それぞれの国に対する情報量の違いに気づく。	・白地図上の行ってみたい国にシールを貼り、その偏在の理由を考える。 ・世界の人口は毎秒2～3人	・白地図 ・「世界がもし100人の村だったら」	・学習活動の取組の観察 ・意見交換への積極性の観察

	人口増加、男女比、高齢化、大陸ごとの人口密度をシュミレーションする。	増加していることを知る。 ・インドと中国の女性の人口が少ない理由、アジアの人口密度の高さについて議論する。	・「世界の人口」 ・自作パワーポイント(PP)	
6	【世界に目を向けて。何が問題？自分には何ができる？】 多様性、不平等の現状を知り、よりよい社会の実現のために自分のできることを考える。	・世界がもし 58 人の村だったら、1 人が瀕死の栄養状態であることに驚く。 ・「世界がもし 100 人の村だったら」を読み、何が問題で、その解決・改善のために、自分には何ができるのかを考える。	・「世界がもし 100 人の村だったら」 ・自作 PP	・学習活動の取組の観察 ・WS の記述内容の確認
7	【援助とは？支援とは？ボランティアとは？】 寄付や募金以外のアイデアを絞り出す。 批判的に考える力を育てる。	・「1枚の看板」から、援助が現地に与える影響について考える。 ・相手の視点でものを見る必要性を感じ取る。	・「援助する前に考えよう」	・グループ活動の取組、発表の意欲の観察
8	【エルサルバドルってどんな国？】 エルサルバドルに関心を持つ。 エルサルバドルに関する基本情報を習得する。	・エルサルバドル産コーヒーを試飲する。 ・国名の由来、人口密度、自然、季節、学制、通貨、中米の日本、アメリカとの関連、日本との関連、JICA の援助について、PP で O × クイズ。 ・エルサルバドルの写真から読み取れることを意見交換し、題名をつける。 ・JICA ボランティアの活動の要点を知る。	・自作 PP ・フォトランゲージ ・コーヒー、国旗、藍染の風呂敷、おもちゃ、雑誌、教科書	・グループ活動の取組の観察 ・フォトランゲージプリントの記述内容の確認 ・振り返り WS の記述内容の確認
9	【あなたにとって幸せとは？】 幸せの価値観は人それぞれであることを認識する。	・事前に生徒から挙げた「幸せ」の定義を参考に、個人→グループで、9つの項目に順位をつけ、理由を述べる。	・ダイヤモンドランキング	・学習活動の取組の観察 ・WS の記述内容の確認
10	【あなたも JICA ボランティア in エルサルバドル】 たまたま豊かな日本に生まれた自分が、社会に貢献することの可能性と価値を認識する。 身近な、小さなことから、自分にできることを考える。 自己有用感をもつ。	・エルサルバドルで活躍している JICA ボランティア(青年海外協力隊員)の活動を知る。 ・「あなたも JICA ボランティア」 ・「JICA ボランティアチームを立ち上げよう！」 ・エルサルバドルの人の幸せのために、自分が何をするか考える。 ・日本で生まれ、日本で教育を受け、日本人であること、それだけで財産、誇りであることを認識する。	・自作 PP ・千村隊員メッセージビデオ ・ハチドリの一と一 ・藍染の衣類	・ビデオの視聴態度の観察 ・グループ活動の取組の観察 ・これまでの学び、自分の個性を生かしたボランティアのアイデアが出せているか、WS で確認
11	【スポーツが原因で戦争？】 誤解や思い込みが、大きなトラブルにつながることもあることを知る。	・1969 年に起こったエルサルバドルとホンジュラス間のサッカー戦争について学ぶ。 ・どうすれば起こらなかったか、身近に同じようなことはないか、平和な社会をつくるために、自分には何ができるかを考える。	・サッカー戦争 ・自作 PP	・学習活動の取組の観察 ・WS の記述内容の確認
12	【JICA ボランティアからのメッセージ】 夢をもつこと、行動すること	・メッセージビデオを視聴し、自己の生き方・あり方について、思いを巡らせる。	・JICA ボランティアのメッセージビデオ	・ビデオの視聴態度の観察 ・学習活動の取

	の価値を知る。	・中学生の今、何をすべきか、何ができるのか、具体的に動くアイデアを練る。		組の観察 ・WS の記述内容の確認
13 ・ 14	【30年後の理想世界像・理想与板像を描こう】 これまでの学びを生かし、理想的な未来像を描く。	・世界、与板の現状を調べる。 ・何が問題で、それが解決・改善させると、どんな姿になるのか、考える。	・「世界がもし100人の村だったら完結編」	・WS の記述内容の確認
15	【描いた夢は実現する！】 自分独自のアクションプランを作成する。	・1ヶ月以内、2年以内、10年以内、30年以内の期間で、各自が選んだテーマを解決するためのアクションプランを作成する。	・「国連ミレニアム開発目標2008」	・WS の記述内容の確認

【5】授業の詳細

1 時限目：【学校に通うのは義務？権利？】

7月6日の第2次研修（人間の安全保障展「世界の幸せと悲しみ」 JICA 地球ひろば）で私自身が体験し、衝撃を受けた活動を行った。生活に必要な水を汲みに行かなければならないため、学校に通うことができない子どもたちの存在を紹介した。実際にバケツにいっぱいの水を入れ、両手に持って、こぼさないように教室の端から端まで運ぶ活動をした。そして就学率、児童労働の現実について扱った。また、日本の食料自給率について紹介し、輸入に頼らずに食事をしようとした場合のメニューを見て、日本と世界のつながり、食や農業に対する感謝の気持ちを新たにしました。

.....
ココがポイント！

国際理解の学習の導入であり、生徒がどれほど食いついてくれるか不安だった。教師の体験、感動が伝わった様子で、これからの学習を楽しみに待つ感想が多く、俄然、やる気が出た。
.....

2・3 時限目：【世の中の縮図を実感しよう】

他学年の職員にもお手伝いしていただき、十分な人数のスタッフをそろえて「新・貿易ゲーム」を行った。途中、価格変動、インフレ、海賊の出現、闇市場の開設など、アレンジを加えて楽しい活動にすることができた。はさみや定規のレンタルや紙の売買だけでなく、切り取ったあとの残りの紙を売るグループ、他のグループが売っている値段を調べ、それより少しだけ安くして売ろうとするグループなど、知恵を絞る様子が見られた。

最後のシェアリングで、ゲームでの事象と、世の中の事象の関連づけを行い、豊かな国はますます豊かになる社会構造に気づいた。また、今、私たちが快適な生活を送ることができるのは、たまたま豊かな国に生まれたからであり、私たち自身の努力の結果ではないことに気づいた。

.....
ココがポイント！

グループでの活動において、傍観者的な生徒がいないことが、今後の学習活動を組む際の励みになった。
.....



製品の値段が変わりますよ～。

4 時限目：【文化の多様性に気付こう】

「地球の食卓」でフォトランゲージを行った。相違点や類似点になんとか気づく様子はあったが、ボキャブラリーの少なさ、生活体験の少なさから、相手に伝わる的確な表現に苦労していた。

5 時限目：【日本は少子化。でも世界は？】

アイスブレーキングとして、行ってみたい国の地図上の位置にシールを貼ってみた。なぜその国に行きたいのか、そのシールの分布から読み取れることは何かを、グループで意見交換をした。行きたい国は、いわゆる先進国がほとんどで、特にヨーロッパに偏在していた。「自然が美しい」「珍しい遺跡がある」「食べ物がおいしい」といった理由が挙がった。しかし、「シールのつかない国には、それらが無いと言い切れるか」との問いかけに、「情報がないだけかも」「知りたい！」という返答が出た。

.....
ココがポイント！

国際理解、国際問題というと、他人事という意識が強く見られていた。アジアの人口問題について学ぶことで、当事者意識が育った時間だった。刻一刻と数字が増えるインターネットのサイトは、視線を引きつける力がすごい！
.....

その後、世界の人口、男性と女性の人口比、インドと中国での女性の人口の少ない理由、世界と日本の高齢化の現状を学んだ。

「世界の人口」というインターネットのサイトから、現在の世界人口が毎秒2～3人の割合で増加していることを目にし、日本の少子化とは異なる人口問題が、地球規模では存在していることが強く印象に残った。

この日の1学年生徒総員は58名。「世界がもし58人の村だったら」を実践した。ひもで作った大陸に、そこに住む人が入ってみて、人口密度の違いを体験した。アジアの人口密度の高さに驚き、貧困や飢餓、疫病や紛争といった命の危険が、私たちの住むアジアに多く起こりうる可能性に気づいた。



真ん中の先生は日本です。生徒は大陸ごとに分かれています。

6 時限目：【世界に目を向けて。何が問題？自分には何ができる？】

「世界がもし58人の村だったら」の2時間目。言語の多様性、言語人口の多い言語の歴史的背景を学習した。

世界の富の配分の不均等性については、豊かな層（20%）、中間層（60%）、貧しい層（20%）に分かれ、1リットルのお茶を分配した。豊かな11人で827ml、中間の35人で159ml、貧しい12人で14mlの配分となり、貧富の差の大きさを実感した。

栄養不足と肥満の問題については、栄養をとりすぎの人（14%、8人）、栄養が十分ではない人（13%、7人）、死にそうな人（1%、1人）、栄養過多でも不足でもない人（72%、42人）に分かれてみた。栄養が足りない人より、栄養をとりすぎの人が多く、瀕死の人がいることを体験し、富や栄養の不均等感を強くした。

最後に、「世界がもし100人の村だったら EDITION2008」を読み、一番問題だと感じた点とその問題が起こった原因、解決に向けて自分ができること、を考察した。

ココがポイント！

一般論については、雄弁に語る姿が見られたが、自分にできること、となると、はたと手が止まった。絞り出した策は「募金」が多数派。自分で働くようになってから募金してね。それよりも、アイデアを出す！行動する！



10のお茶を分けてみました。

7 時限目：【援助とは？支援とは？ボランティアとは？】

「お金や物をあげれば、貧しい国の人を幸せにできる」、そんな考えに、発想の転換を促すために実施した。

「1枚の看板」の題材で、募金の是非を問うた。まず、10ドルの寄付の呼びかけに応じる生徒がほとんどで、中には150ドルまで出す生徒もいた。基本的に寄付行為そのものには疑問を持たず、問題となったのは額をいくらにするかであった。寄付をしないと云った生徒はわずか2人。理由は「お金がもったいないから」と「本当に寄付になるのか怪しいから」。「怪しい」の一言で、討論が始まった。「そういえば、日本でも怪しい街頭募金があるよね」「本当に学校のためになるの？」「誰が管理するの？」といった疑問が出てきた。批判的な思考が始まった。

「バーン村の人が、お金が欲しいって言ったのかな」の問いかけに、寄付をする側の視点から、寄付をされる側の視点に移った。「村の実態を知りたい」という声が出た。何か役に立ちたいという意欲と行動力は素晴らしいが、相手の現実、意向を理解することが、援助やボランティアをする上で大切だと認識した。

ココがポイント！

お金は便利な道具だが、万能ではないことを理解させた。生徒は相手の視点で行動することの難しさ、大切さも合わせて理解できたと思う。

8 時限目：【エルサルバドルってどんな国？】

まずはエルサルバドルの特産物であるコーヒーの試飲をした。公開授業であったが、生徒も参観者も（授業者も）リラックスして授業に臨むことができた。

次に自作パワーポイントで、〇×クイズを行った。エルサルバドルに関する基本的な情報を、〇×の解答と解説で紹介した。

続いてフォトランゲージ。「地球の食卓」で試み、挫折感を味わった手法であるが、果敢に再チャレンジした。今回は、記入スペースが足りないほどの記入があった。これまでの国際理解の学習を通して、自分の意見や提案が否定されない安心感、様々なアイデアや自分と異なる価値観に触れる楽しさを得ており、その成果と言えると思う。「市場」「食」「トウモロコシ山」「ATMの行列」「学校」「銃や有刺鉄線」「ゴミ」の7枚のシートを7グループに循環させ、再び戻ってきたシートに題名をつけ、その理由とともに発表した。

その発表に解説を加え、治安や自然災害、ゴミ、食、教育、家族のあり方など、エルサルバドルが抱える問題にも意識が向くように留意した。

エルサルバドル研修の際にお会いした JICA 隊員の活動内容の要点を紹介し、生き方・あり方について思いを巡らし、ボランティア活動の多様性に触れた。

9 時限目：【あなたにとって幸せとは？】

自分の人生において、大切だと考える順に、以下の9つの項目をダイヤモンドランキングの手法で順位づけした。事前に生徒に「幸せ」の定義を自由記述させ、その内容をグルーピングした項目に、国際理解の学習を進める上で考える材料としてほしい項目を加え、以下の9つに決定した。

- 衣食住が足りていること ○勉強・教育の機会があること ○お金が十分にあること
- 趣味を楽しむ時間があること ○信頼できる友だちがいること ○健康であること
- 安全であること・危険でないこと ○家族がそばにいること ○その他(自分で考えて記入)

始めは個人でランキングをし、その後、意見交換をしながらグループでのランキングを作成し、発表した。他のメンバー、他のグループの理由を聞き合う中で、似たような環境で生活している仲間同士でも、幸せの価値観は全く異なるのだから、生活環境の異なる人との価値観は違って当然であることを理解した。また、自分が大切だと思うことを否定されないことの安心感を、他の人からも奪ってはいけないことも理解した。

10 時限目：【あなたも JICA ボランティア in エルサルバドル】

公開授業2時間目。まずは、エルサルバドルで活躍する JICA ボランティア(青年海外協力隊員)の活動内容を詳しく紹介をした。メインに選んだ千村友輝隊員からのメッセージビデオを視聴し、「知らない世界に出てみよう」「日本人であること、それだけで財産、誇り」「日本の知恵や技術を望んでいる人がたくさんいる」という熱いメッセージに感銘を受けた。自分にも何かできることがあるのではないかと、中学生の今の生き方につながる働きかけをした。

次に「幸せ」の多様性の復習をした。価値観は人それぞれであること、自分の価値観を押しつけてはいけないことを確認した。それを踏まえて、エルサルバドルの人をもっと幸せにするためには、どんな活動が考えられるか、につなげた。

題して「あなたも JICA ボランティア in エルサルバドル～あな

ココがポイント！

フォトランゲージでの生徒の成長ぶりに感激。思いを自由に表現することを優先したため、若干、不適切な表現も見られたのは反省点。これからの授業は、自分の人生にどう生かすか、の観点で進むので、ただ、「面白かった」「なるほど」で終わらず、問題意識、当事者意識につながるよう配慮した。



頭をつきあわせて、フォトランゲージ。

ココがポイント！

ディスカッションが上手にできるようになった。いわゆる正解がない議題について、自分の考えを述べ、他者の意見を聞き、深め合う姿が見られた。傍観者がいないのがうれしい！

ココがポイント！

かなり demanding な学習内容であったが、侃侃諤諤、生徒は本当に頑張った。与板の伝統打ち刃物の技術を教え、新しい産業に育てる、というアイデアが印象的だった！その他、農業高校を作る、「おもてなし」の心を伝授する、歯磨き指導をする、体育と音楽の授業を必修科目にする、といったアイデアが挙げられた。



たにもきっと何かができるはず～」。まずはブレインストーミング

貝類養殖技術向上に取り組んでいる、海の男、可児さんです。

グ。「幸せ」のダイヤモンドランキングの結果を参考にしつつ、どの分野でより幸福度を上げていくかのテーマを絞り、達成された姿をイメージした。その達成のための手立てを、グループで頭を突き合わせてアイディアを次々と出し、ワークシートに書き込んだ。

続いて、そのアイディアをもとに、「JICA ボランティアチームを立ち上げよう！」と、募集要項の作成を行った。「団体名」「活動目的」「活動内容」「こんな人に参加してもらいたい」という内容で取り組んだ。自己有用感を持ち、社会に貢献する自分をイメージすることがねらいであるが、なかなかそこまでの涵養ができていない現実もあり、意見を出しにくい生徒が複数いることが想像された。団体名（ネーミング）を考える活動を導入することで、メンバー全員に何かしら果たす役割があるよう配慮した。また、「こんな人に参加してもらいたい」という項目では、社会で求められる人材の裏返しであり、このような資質を、今後各自が身につけられるようにという願いにもつながる。プレゼンも堂々で行うことができた。

最後の「ハチドリの一としずく」では、「私は、私にできることをしているだけ」のくだりを想像させた。いつか大きなことをするのでもいいけれど、今できることを、例えば小さなことであっても、自分にできる（自分にしかできない）何かを自信をもって行うことの価値を認識した。



こんなアイディアはどう？ うん、いいね。



農業高校を作るのはどうでしょうか。

11 時限目：【スポーツが原因で戦争？】

学校のサッカー部、地域のサッカークラブチームに所属する生徒が多いので、身近な問題として捉えることができると思い、実践した。サッカー（スポーツ）が原因で戦争が勃発したことに、衝撃を受けた様子だった。

1969 年、エルサルバドルと隣国ホンジュラスの間で起こった、いわゆる「サッカー戦争」。1 人のサッカーファンの少女の自殺から戦争へと発展した経緯と、その当時の時代背景を学びながら、平和な社会をつくる術を考察した。

また、ちょっとした思い違いや先入観、コミュニケーションの不足、相手に対する理解（しようとする努力）の不足から、小さな摩擦や対立が人間関係に大きな溝を作ってしまうことが、身近にあるのではないかと問うた。いじめの発端もこのようなものではないだろうか。

ココがポイント！

日頃やんちゃなサッカー少年たちが、真剣に話を聞き、考え、自分の考えを進んで発表する姿が見られた。いじめは絶対に許さない、いじめにつながるようなことをしないように注意し合おう、という意見に、拍手が起こった。

12 時限目：【JICA ボランティアからのメッセージ】

13・14 時限目：【30 年後の理想世界像・理想と板像を描こう】

15 時限目：【描いた夢は実現する！】

「夢を描く」「描いた夢は実現する」「自分の個性を生かした、自分にしかできない何かを実践しよう」をテーマに、個人でのレポート作成を行った。

〔6〕児童・生徒の反応/変化

①価値観の多様性を受け入れる、他者目線で考える

「援助」イコール「お金をあげること」の概念がなくなった。相手が何を望んでいるかを理解しようとするのが、最も大事であることが理解できた。また、価値観の多様性を実感し、自分と異なる考えにも謙虚に耳を傾ける姿勢が見られるようになった。

②コミュニケーション、他者と共同すること

学習活動を行う際、決して頭から、他の意見を否定しないことを約束事にした。一見、自分と異なる

意見であっても、理由や背景を共有することで、自分の考えをさらに深めることができた。さらに、よりよく相手に理解してもらうために、自分の伝えるスキルを磨く必要性を感じ、言葉の的確な使用、チャート図、イラスト、表情、身振り等の効果的な使用を心がける姿が見られた。

③自己有用感、行動すること

社会に貢献できる自分の存在に気づいた。今の自分のアイディアと小さな行動が、未来のなりたい自分をつくる原動力となる可能性を認識し、中学生の今の時期を充実させようという意欲が、振り返りの記述に多く見られた。

〔7〕授業実践の成果と課題

①成果

教師の熱意を生徒はキャッチしてくれる。実際に体験し、感動し、伝えたいという熱い思いをもった内容が、生徒の心に響かない訳がない。そんな当たり前のことを痛感した。初めて扱う教材、題材ばかりであり、毎時間の準備に追われる日々であったが、生徒が生き生きと授業に参加し、堂々と意見を述べ合い、「今日も楽しかったよ」などと声をかけてくれるのが、嬉しくてたまらなかった。振り返りのワークシートや、学級担任をしているクラスの生徒が毎日記入し提出する生活ノートの記載が日々充実していき、学習の深まりとともに、生徒と教師のコミュニケーションの深まりにもなった。クラスの人間関係づくりや、個性を生かした進路選択の一助にもなった。

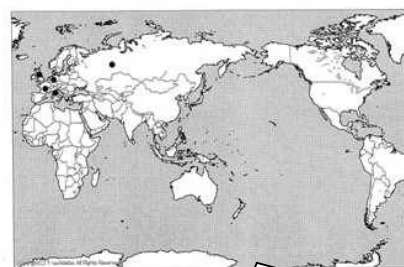
②課題

授業時間の確保と、次年度以降の実施の可否が心配である。当校の1年生の総合的な学習の時間の内容に、国際理解を導入したのは昨年度(2012年度)からであり、今年度が2年目である。その年の当該学年の担当者にゆだねられる部分も多く、継続した取組になりにくいのが現状である。

〔8〕参考文献(引用文献・参考資料)

- ・『どうなってるの？世界と日本』 JICA 2012 年
- ・『ぼくら地球調査隊』小冊子「世界の水問題」「学校に行けない世界の子どもたち」「砂漠化する惑星」「いのち、輝け！」「世界の食料」 JICA 2012 年
- ・『新・貿易ゲーム[改訂版]』 開発教育協会・かながわ国際交流財団 2009 年
- ・『写真で学ぼう！地球の食卓学習プラン 10』 開発教育協会 2012 年
- ・『世界がもし 100 人の村だったら』 池田香代子再話 C.ダグラス・ラミス対訳 マガジンハウス 2001 年
- ・『世界がもし 100 人の村だったら完結編』 池田香代子 マガジンハウス 2008 年
- ・『ワークショップ版世界がもし 100 人の村だったら第 3 版』 開発教育協会 2011 年
- ・「世界の人口」 <http://www.arkot.com./jinkou/> 2013 年 10 月 30 日
- ・『「援助」する前に考えよう』 開発教育協会 2006 年
- ・『わたしたちの地球と未来 エルサルバドル共和国』 愛知県国際交流協会 2009 年
- ・『ハチドリのひとつづーいま、私にできること』 辻信一監修 光文社 2005 年
- ・『開発教育実践ハンドブック 参加型学習で世界を感じる[改訂版]』 開発教育協会 2012 年
- ・『エルサルバドルを知るための 55 章』細野昭雄・田中高編 明石書店 2010 年

〔9〕使用教材(写真／図などの実物)



第2次研修で見学・体験した「人間の安全保障」

あなたにとって幸せとは？

- あなたにとって、大切なことは何ですか？
- ① 健康が保たれていること
 - ② 家族や友人と仲良く暮らしていること
 - ③ 経済的に豊かであること
 - ④ 教育を受けることができること
 - ⑤ 安全であること
 - ⑥ 環境がきれいなこと
 - ⑦ 社会が安定していること
 - ⑧ その他(自分で考えて記入)

もっとも大切な



最も大切なこと

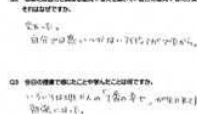
健康と安全が保たれていること
経済が豊かであること
教育を受けることができること
安全であること

お金より大切なものがある！

人間の安全 あなたにとって幸せとは？

- ① 健康が保たれていること
- ② 家族や友人と仲良く暮らしていること
- ③ 経済的に豊かであること
- ④ 教育を受けることができること
- ⑤ 安全であること
- ⑥ 環境がきれいなこと
- ⑦ 社会が安定していること
- ⑧ その他(自分で考えて記入)

もっとも大切な



最も大切なこと

健康と安全が保たれていること
経済が豊かであること
教育を受けることができること
安全であること

価値観は人それぞれ

支援の具体例は？

勉強・教育の環境整備

治安の改善・埋立地の造成

農業技術・衛生面の向上

あなたも JICA ボランティア in エルサルバドル

- ① 健康が保たれていること
- ② 家族や友人と仲良く暮らしていること
- ③ 経済的に豊かであること
- ④ 教育を受けることができること
- ⑤ 安全であること
- ⑥ 環境がきれいなこと
- ⑦ 社会が安定していること
- ⑧ その他(自分で考えて記入)

サッカー戦争...平和な社会をつくるには？

- ① 健康が保たれていること
- ② 家族や友人と仲良く暮らしていること
- ③ 経済的に豊かであること
- ④ 教育を受けることができること
- ⑤ 安全であること
- ⑥ 環境がきれいなこと
- ⑦ 社会が安定していること
- ⑧ その他(自分で考えて記入)

あなたも JICA ボランティア in エルサルバドル

- ① 健康が保たれていること
- ② 家族や友人と仲良く暮らしていること
- ③ 経済的に豊かであること
- ④ 教育を受けることができること
- ⑤ 安全であること
- ⑥ 環境がきれいなこと
- ⑦ 社会が安定していること
- ⑧ その他(自分で考えて記入)

健康と安全が保たれていること
経済が豊かであること
教育を受けることができること
安全であること

勉強・教育の環境整備

治安の改善・埋立地の造成

農業技術・衛生面の向上

悪口や無視などしない、注意する、加わらない！

ボランティアに積極的に参加したい！

水問題の解決のために大学で学び、プレゼンする！

【10】教師海外研修を終えて(感想・今後の展望)

今年度は、学年の総合的な学習の時間を十分に活用でき、それぞれの学習が単発で終わらず、互いに関連付けて、深い学びにつなげることができた。

来年度以降は、担当教科の英語の授業で、今回の研修の成果を生徒に還元する予定である。3年生の教科書で扱っている、キング牧師のスピーチ「I Have a Dream」、風力発電会社を設立したいという希望をもった、マラウイのウィリアム少年のお話などは、そのよい題材である。以前の教科書で扱った、ブータンの西岡京治さんの物語は、まさに JICA の活動そのものである。

JICA エルサルバドル事務所の佐藤次長がおっしゃった言葉に、「みんながボランティアになる必要はない。ボランティアを育てる人、ボランティアの必要性をわかって実践・行動する人も必要だ」というのが

あった。文字や数字を見てわかった気分にならず、経験をもとにした授業を大切にしたい。生徒が、そして私自身が、自分の行動につなげられるように、、、。